

## 便利さとやさしさ

広島県 神石高原町立神石高原中学校 3年  
谷川 菜々華 (たにかわ ななか)

先日、スーパーで買い物をしていた時のことです。レジの横で一人のおばあさんが困っている様子を見かけました。そのスーパーにはセルフレジが導入されていて、多くのお客さんが自分で操作して会計をしていました。しかし、そのおばあさんは操作方法が分からず、タッチパネルの前で戸惑っていました。そばにいた若い店員さんが対応していましたが、とても冷たい態度で、面倒くさそうに「ここを押してください」と早口で言うだけでした。おばあさんは不安そうに何度も画面を見て、結局さらに時間がかかってしまいました。その姿を見て、私は胸が痛くなりました。

セルフレジは便利で効率的です。私自身も普段から利用していて、並ばずに会計ができるのはとてもありがたいと思っています。しかし、一方で使い方に慣れていない人にとっては、とても大きな壁になるのだと気づきました。特に高齢の方にとっては、画面の文字が小さかったり、操作が複雑だったりして、難しいことが多いはずですが、それなのに、店員さんの対応が冷たいと、余計に不安になってしまいます。買い物は誰にとっても生活に欠かせないものであり、安心してできるものでなければならないのに、そのおばあさんは「自分は迷惑な存在なのか」と感じてしまうのではないかと思い、とても悲しい気持ちになりました。

この出来事を通して、私は「技術が進む社会の中で、人権はどう守られていくべきか」ということを考えました。人権とは、誰もが安心して生活し、尊重されながら生きる権利だと学びました。セルフレジやキャッシュレス決済など、便利な技術は次々と生まれています。しかし、それが一部の人だけにとって便利で、他の人にとっては大きな負担になるのなら、それは本当に平等な社会といえるのでしょうか。高齢者や障害のある人も含めて、すべての人が安心して利用できるように工夫することが、人権を大切にすることにつながるのだと思いました。

また、このとき私は「自分には何ができたのだろう」と考えました。もし勇気を出して「お手伝いしましょうか」と声をかけていたら、おばあさんは少し

でも安心できたかもしれません。困っている人を見ても、つい「店員さんがいるから大丈夫だろう」と思ってしまうことがあります。でも、店員さんの対応が冷たいときには、周りにいる私たちが手を差し伸べることも必要です。人権は大きな制度や法律の話だけでなく、日常の小さな思いやりの中でも守られていくものだと感じました。

これから社会はますます便利になり、デジタル化も進んでいくでしょう。しかし、その進歩がすべての人にとって本当に「やさしい」ものであるためには、幅広い世代や立場の人々に配慮した工夫が必要です。例えば、文字を大きく表示できる機能をつけたり、分かりやすい案内を置いたりすることが考えられます。また、店員さんの対応についても、困っている人に寄り添う気持ちを持つことが大切だと思います。技術を支えるのは結局人の心であり、思いやりの心がなければ、どんなに便利な機械でも誰かを孤独にってしまうことがあると感じました。

今回の出来事を通して、私は人権について新しい視点を持つことができました。人権を守るということは、特別な大きなことではなく、身近な生活の中で「相手の立場を考えること」から始まるのだと思います。もしまた同じような場面に出会ったら、今度は勇気を出して声をかけてみたいです。そして、将来どんな技術が生まれても、誰もが取り残されない社会をつくっていける人になりたいと思います。